名古屋ＳＦ読書会１６　三体　劉慈欣　２０１９・１２・２２

名古屋ＳＦ読書会ＵＲＬ　http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/

葉文潔（イエ・ウェンジェ／よう・ぶんけつ）の物語

１９６７年、文化大革命の最中、北京の大学院で天体物理を学んでいた文潔は、物理学教授であった父を４人の紅衛兵に殺され、内モンゴルの生産建設兵団に配属された。そこで『沈黙の春』を読み、人類の本質は悪であると考えるようになる。反革命罪に問われた文潔は、父の教え子であった楊衛寧（ヤン・ウェイニン）に助けられ、紅岸プロジェクトに参加する。このプロジェクトは宇宙からの信号を受信する地球外知的生命体探査計画だった。文潔は太陽が電磁波を増幅反射するエネルギー鏡面を持つことを発見し、太陽に向けて高出力の信号を送る。８年後、ついに地球外からのメッセージが届く。文面は「応答するな、すれば侵略される」という予想もしないものだった。応答するか、しないか。人類に絶望していた葉が選んだ道は――。

汪淼（ワン・ミャオ／おう・びょう）の物語

２０１×年、ナノテクノロジー研究センターでナノマテリアルの研究をしている汪教授は、警察と軍人４名の訪問を受け、ある会議に連れていかれる。〈科学フロンティア〉とかかわりのある物理学者が二か月のうちに次々と自殺しており、理由は「物理学が存在しない」という不可解なものだった。汪はそこで〈科学フロンティア〉に入って真相を探ってほしいと頼まれる。どうやら、三台の高エネルギー粒子加速器で得られた結果が一致しなかったことが原因らしい。以来、汪の撮る写真に数字のカウントダウンが現れるという不思議な現象が起き、ついには眼前にも数字が浮かび上がる。〈科学フロンティア〉のメンバー申玉菲（シェン・ユーフェイ／しん・ぎょくひ）がプレイしていたVRゲームに興味を持った汪は、そのゲームにログインする――。

ゲーム『三体』

三体という奇妙なゲームの世界には、三つの大きな星があり、灼熱の昼や極寒の夜が不定期に訪れる〈乱紀〉、昼と夜が規則正しく訪れる〈恒紀〉がランダムに生じる。乱紀には人々は水分を放出して脱水体となり、安定した〈恒紀〉を待つのだ。

#137　海人（汪淼）　周の文王　紂王　伏羲　戦国時代に到達
#141　海人　墨子　孔子　後漢レベルまで到達
#183　コペルニクス　アリストテレス　ガリレオ　ダ・ヴィンチ　三太陽出現　中世に到達
#184　ニュートン　フォン・ノイマン　始皇帝　人列コンピュータ　三太陽直列　科学革命
#192　コペルニクス　アインシュタイン　原子力時代　三体問題に解はない→移民を目指す

地球三体協会＝ETO（アース・トライソラリス・オーガニゼーション）

地球三体協会のメンバーには三つの派閥が存在する。

降臨派…環境汚染や戦争などを引き起こす人類に絶望しており、三体人の降臨による人類の絶滅を待望している。

救済派…三体問題を解決して、三体人を救済し、太陽系を侵略せずにすむよう努力する。

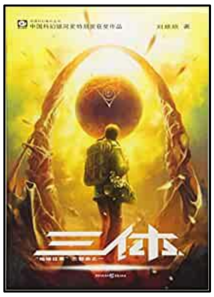
生存派…四百五十年後の侵略に向けて、最終戦争で人類が生き残れるよう準備する。

いずれの立場をとるにせよ、三体世界は、二個の陽子を四光年離れた地球に到達させるほどの高度な科学力を持っている。三体世界から見れば、地球人類はただの虫けらに過ぎない。

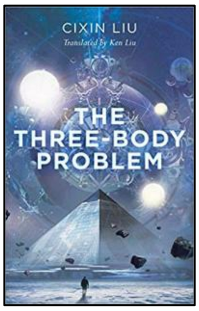
智子（ソフォン／ちし）プロジェクト

三体人の送り込んできた陽子は、一種の人工知能である智子（ソフォン）であった。二次元展開して巨大な膜となった陽子に集積回路をエッチングして人工知能を作り、十一次元まで移行して元の陽子の大きさに戻す。智子１・２号は地球へ送り込まれ、３・４号は三体世界にとどまる。量子もつれによって四つの智子は互いの状態を感知できる。地球の智子は粒子加速器に潜伏し、間違った結果をもたらす。さらに余力があるので、智子は宇宙背景放射をちらつかせるなどさまざまな奇跡をもたらす。この「奇跡」と、科学の副作用を強調して大衆が科学に恐怖と嫌悪を感じるようにさせる「染色」によって、三体人は地球人類の科学的発展を抑えようとした。

早川書房
2019年7月
表紙：富安健一郎



2008年1月
中国版



2015年7月
イギリス版

朝日新聞　２０１９年８月２日（金）朝刊より

中国SF 国家の隔たり超えて

小説「三体」日本でも10万部超

中国でシリーズ累計2千万部を超える大ベストセラーとなったSF小説『三体』の邦訳が発売された。日本でも発売1カ月で10万部を超え、近年の海外SFとしては異例のヒットとなっている。著者の劉慈欣さん(56)に、創作の過程や世界的にも人気が高まる中国SFについて聞いた。

『三体』は、文化大革命（1966〜76年）で父を亡くしたエリート女性科学者が宇宙に向けて発信した電波が、惑星「三体」の異星人に届き、人類の危機を招くという物語だ。スケールの大きな3部作で、第1部が早川書房から刊行された。

アイデアは、物理学の難問「三体問題」の文章を読んだことがきっかけ。宇宙に質量を持つ三つの物質があれば引力が相互に働き、現在の物理学や数学では動きが予測できない。「たった三つでも予測できないなら、ある恒星系の中に三体運動があったら、文明はどうなるのだろうか」と考えた。

根底には、人類が生存を続けていること自体が不可思議だという思いがある。「我々は当然だと思っているが、一種の幻想かもしれない。宇宙全体の残酷な生存競争の中で、人類文明は生き続ける力があるか」

中国SFの特徴について尋ねると、「よく違いについて聞かれるが、むしろ異なる文化間でも共鳴しやすいのがSF」と答えた。「リアリズム文学では、人種に基づく国家の隔たりはなかなか超えられないが、SFでは、人類は一つの総体として共同で危機に立ち向かうからだ」

もちろん東西の違いは意識している。「欧米のSFにはキリスト教文化が色濃く反映されるのに対し、中国にはそこまで絶対的な存在がない」。西洋では「神の領域」ととらえられる生命の創造、クローン、遺伝子操作といったテーマにも、それほど抵抗を感じないという。

危機への対処の違いも特徴的だ。西洋は特別な力を持つヒーローに希望を託す英雄主義。東洋、とりわけ中国は、みんなが一つの目標に向かって力を合わせる集団主義だとみる。

自らの作品や中国のSFについて語る劉慈欣さん＝北京、延与光貞撮影

SF小説『三体』3部作

著者・劉慈欣さん 人類協力の物語 共鳴■科学の希望信じる

三体の舞台にもした文化大革命の時代に幼少期を過ごした。禁書扱いだったベルヌの『地底旅行』をこっそり読んだのがSFとの出会いだ。クラークやウェルズといった古典から、日本の小松左京、田中芳樹の『銀河英雄伝説』まで幅広く親しんできた。最近では「攻殻機動隊」、新海誠監督などのアニメも見ている。

欧州で生まれたSFが米国で発展し、いま中国が注目されつつある。「SFは国の発展のバロメーター。中国が科学技術への自信をつけたことが関係している」。ただ、将来には悲観的だ。名の知れた作家は20〜30人程度で、多くは別に生活のための仕事を持つ。自身も長く山西省の発電所で技師をしながら書いていた。

科学の負の側面を描くSFが優勢のなかで、人類が科学技術の力で危機を乗り越える設定にこだわる。中国でも科学者が独断で遺伝子操作をして双子を出産させたり、米国が気候変動や核軍縮に後ろ向きな姿勢を見せたりしている。それでも信念は揺らがない。

「核戦争の危機を回避したように、人類は法律や制度、責任感で副作用をコントロールできる。科学技術を悪者扱いするのがSFの正しい方向とは思えない」

（北京＝延与光貞）

弾圧や批判 ヒューゴー賞で一変

オバマ前米大統領やフェイスブックのマーク・ザッカーバーグが激賞したSFが、ついに日本上陸――『三体』邦訳刊行に当たり、版元の早川書房はそんな惹句を打ち出した。英、独、仏、ロシア、タイ、韓国など約20カ国で出版され、2015年には翻訳作品として初めて、アメリカの世界的なSF文学賞「ヒューゴー賞」を受賞した。

三体邦訳の監修者・立原透耶さんが中国SF躍進の立役者として挙げるのが、中国系アメリカ人作家のケン・リュウだ。11年の短編「紙の動物園」がヒューゴー賞など3大SF文学賞を初めて独占し、一方で中国SFを積極的に翻訳。三体の英訳も手がけた。さらに中国SFのアンソロジーも編纂し、表題作の郝景芳「折りたたみ北京」も16年、ヒューゴー賞に導いた。

中国では1950年代から科学的な知識を広めるための「科学普及小説」が書かれたが、より物語性の高い「科学幻想小説」は科学者の批判や国家の弾圧にさらされた。だが、三体のヒューゴー賞受賞で状況は一変。中国文化を世界にアピールする手段として、SFが注目を浴びている。

日本でも、中国SFの邦訳が徐々に刊行されるようになり、なかでも三体は最大の注目作として期待されていた。また、中国語で書かれた「華文ミステリー」も近年、相次いで翻訳され話題を呼んでいる。立原さんは「中国の若い書き手は最新のSFやミステリーを翻訳で読み、世界的な感覚を身につけている。はじめから世界の読者を意識して書く作家もいて、新しい世代のエンタメ文学が出てきたと感じる」と話す。（山崎聡）

黒板

◇第37回兜太現代俳句新人賞（現代俳句協会主催）　佐孝石画さん(49)＝福井市在住＝の「独白」（50句）に決まった。同賞の名称は前回まで「現代俳句新人賞」だったが、今回から故金子兜太さんの名を冠することになった。